

平成25年度
留学生ホームステイ
思い出の文集

公益財団法人新潟市国際交流協会

日 程 表

☆7月27日（土曜日）

場所：クロスパルにいがた

午後1時30分 対面式、諸連絡、記念撮影

午後2時 各ご家庭へ

☆7月28日（日曜日）

午後3時 各ご家庭にて解散

★12家庭 14人の留学生（6カ国）で行いました。

中国：胡 亞寧 (コ アネイ)

今回、貴重な機会を得られとても感謝しています。日本家庭の生活様式や習慣を教科書だけでは学ぶことのできない体験をすることができました。

対面式のあと、自家製のアイスクリームを食べに行きました。道中、10歳のけっちゃんがすでに私の趣味や好物を知っていることに、とても驚きました。確かに申込時に書きましたが、10歳の子どもがここまでできるとは思いませんでした。中国の小学4年生の子どもの多くは甘やかされ、けっちゃんのような子どもは少ないです。私のような外国人に対しても、親切にしてくれていると実感しました。他にも、車に乗る時はドアを開けてくれ、食後にティッシュを持ってきてくれ、手を洗う時はハンカチを差し出してくれるなど、印象に残っています。緊張している私に、よく話かけてくれて、家のおもちゃを見せてくれ、写真を撮ってくれる、10才の子どもがここまでできることに本当に驚きました。会うまでは男の子とどう接すればよいか、いろいろ考えていましたが、けっちゃんに接し、心配は全部消えました。本当にいい子です！

お父さんとお母さんもとても親切な方で、私の下手な日本語の話を最後まで聞いてくれました。子どもが良い子でいるのは、良い家庭教育にあると思いました。

花火やたくさんのごちそう、笹川流れのドライブ、初めて海に足を入れ、とても気持ちがよかったです。

1泊2日のホームステイを通して、日本の文化と習慣にますます興味が湧いてきました。

けっちゃんに感謝…お部屋に泊めてくれて、おもちゃをかしてくれて、おやすみの挨拶と朝のメッセージ、海で拾った貝がらと小石…。

ママにも感謝…花火の準備、サンダル。

パパにも感謝…おいしい料理、長距離の運転。皆さんに感謝、皆さんのお陰で大切な思い出が増えました。8月末に帰国しますが、皆さんに会え、日本への思いが強くなりました。今回のホームステイは短い時間で終わりましたが、ゴールではなく、交流のスタートだと信じています。今後も異文化間の交流がますます深まることを信じています。



ロシア：ソリナ・アンナ

わたしは初めてホームステイのプログラムに参加しました。それでホームステイの家族にあったとき、ちょっと恥ずかしくなりました。でも皆さんはやさしくて、いい人だから、すぐになれました。家族はあや

さんとお母さんのれいこさんです。

最初は家族と日本海タワーに行って、きれいな景色を見ました。ここにウラジオストクのシンボルとロシアのものが飾ってありました。その次に旧小澤家住宅にいきました。ガイドさんは面白いツアーをしてくれて、おいしいお茶をくれました。

そのあとあやさんのお祖母さんとお祖父さんのお宅に行きました。このお住まいは伝統的な日本の家です。部屋の床に畳があります。仏壇と床の間がありました。私は、仏壇を初めてみたのであやさんは、仏壇の祈り方を教えてくれました。お住まいを見た後で、家族そろって話しながらご飯を食べました。おかずは焼き魚や豆、菜漬などがあります。普通の日本人の生活はとてもおもしろいです。

晩ご飯を食べた後で、車であやさんのアパートに行きました。彩さんとお母さんは、マンションに住んでいます。旅行の写真と子どもときの写真を見せてくれました。この日は疲れたけど、とても楽しかったです。

次の日、お母さんは朝ごはんにおにぎりやサラダを作ってくれました。そして自然科学館に行きました。ロボットと動いている恐竜と色々な不思議なものを見ました。そのあとプラネタリウムにいて、とてもきれいな映画を見ました。プラネタリウムに初めて行きました。わたしの町にはプラネタリウムがありません。

そのあとおいしいパン屋で一緒にパンを食べて、わたしのアパートまで送ってくれました。

あやさんは外国について興味があるので、わたしはロシアの生活について話しました。そして少しロシア語を教えました。土曜日と日曜日ずっと日本語で話したり、新しい言葉を勉強したりしました。これはいい経験だと思います。

最近あやさんに会って、明和義人祭に行って、遊びました。わたしはロシアから持ってきたお土産をあげました。彩さんと友達になりました。うれしいです。



中国：吳 泳霞 (ゴ エイカ)

7月27、28日、内山 千津子さんの家でホームステイを体験させていただいた。

はじめて内山さんは一人暮らしだと知っていたときに、正直に緊張した。食事のときに何を話せばいいか、自分はどんな振る舞いをすればいいかとかもいろいろ考えていた。でも、内山さんと会ってから、家まで

車に乗ってくれたときに、いろいろ話をしてくれて、本当によかった。緊張感も減ってきた。

家について、内山さんはお菓子とおいしいコーヒーを準備してくれて、しゃべりながらお互いの理解が進んだ。内山さんが旅行と読書が好きだとわかった。内山さんはいろいろな旅行での体験を話してくれて、とてもおもしろかった。私が料理を作るのが好きなことをはなしたら、一緒に料理を作らせていただいた。食事のときにもよく話し合っていた。

次の日、内山さんと一緒に公園に行って、体操をした。内山さんはすごく健康な生活を過ごしていると実感した。家に帰って、おいしい朝ごはんを作ってくれた。その後、内山さんは絵葉書がすきで、その作り方を教えてくれ、一緒に作った。はじめて絵葉書を作ったが、すごくおもしろかった。内山さんの教え方も分かりやすかった。

このホームステイを通じて、内山さんのライフスタイルがわかった。ご年配の方だが、心理年齢は私より若いと思った。内山さんはポジティブな考え方を持っていて、健康な生活を送っている。自分ももっとポジティブになりたいと思っている。特に、困難はいつでもあるが、自分自身から試してみないと、結果がわからないってこと、内山さんから学んだ。この思いを持って、今後の生活を楽しんでいこうと思う。

このホームステイを体験させていただいて、本当にありがとうございました。



インド：アルムガム・ソマスダラム

2013年7月27日～28日の間、櫛舎さんの家でホームステイをしました。櫛舎ご夫妻と櫛舎家の二匹の犬と過ごした二日間は忘れられない楽しい週末でした。まるで本物の家族のように接してくれ、和食のごちそうも振る舞ってくれました。日本に来て三年が経ち、和食には慣れてきましたが、櫛舎家の和食は本当に美味しかったです。一緒に昼食のステーキを食べに行くこともできました。

今回のホームステイで感心したことは、日本人の生活における清潔さでした。私も常に家をきれいに保ちたいと思っていますが、時間がなかったり、ルームメイトがものを散らかしたりして、うまくいきません。ところが、櫛舎家の清潔整然な暮らしを見て、自分の生活にも取り入れたいと思う工夫がありました。

ホームステイの間はお互いに母国のことを話し、とて

も勉強になりました。日本の生活や文化を知ることのできるいい経験でした。なによりも、櫛舎ご夫妻の親切さに胸を打たれました。母国と異なるおもてなしの文化に触れる貴重な経験でした。



中国：江 荻（コウ テキ）

ホームステイ先は久美お母さんの家でした。5人家族のとても幸せな家庭です。

対面式には、お母さんと長女のMI、弟のYUの3人できてくれました。二女のMANYAはバスケ練習のため、来れませんでした。まず、買い物に行き、道中、中国のことをたくさん話しました。お母さんはとても温和な人で、すぐ溶け込むことができました。でも、MIはたぶん私と一緒に緊張していて、あんまり話しませんでした。でも私はとても楽しかったです。MIも「嵐」が大好きなことを知り、本当にうれしかったです。YUはとても明るくて、子どもが苦手な私でしたが、彼にあった瞬間、大好きになりました。かわいい弟です。

お母さんはたくさんのごちそうを作ってくれ、食事中は中国の食文化について話し、日本と中国には、結構共通点があることに驚きました。夕食後、花火をしました。中国ではお正月の時しか花火をしないので、平日でもできるなんて本当に感激しました。

日曜日、もう一つの家族と一緒にバーベキューをしました。そのお母さんも「嵐」が大好きで、しかも同じ大野くんファン、本当にうれしかったです。バーベキューもとても楽しかったです。お父さんがずっと焼いていて、本当に偉いです。肉はもちろん、初めて食べたじゃが芋も、とてもおいしかったです。

短いホームステイでしたが、日本の家庭を知り、中日の多くの共通点も共有でき、また日本の家庭の温かさを知ることができ、何よりの収穫でした。

久美お母さん、本当に楽しかったです。ありがとうございました。



中国：胥 文淑（ショ ブンシュク）

まず、今回のホームステイに参加でき、本当によい体験ができ、感謝します。

参加する前に、すごく期待していましたが、いろい

ろな心配もありました。日本人の家族で注意すべきことはなんですか？先輩にいろいろ聞きました。しかし、小林さんの家族に会ったら、心配が全部消えてなんか安心しました。すごく親切な人だからです。

対面会が終わったら、私を連れてメディアシップ20階の展望台へ行きました。展望台で新潟の全景を見渡すことができました。信濃川が新潟を通り抜けて銀色の帯のように舞っていた。すごく綺麗でした。

雑談で私は「新潟のバスに乗ったことなかったです」と言いました。「じゃあ、帰る時にバスに乗りましょう」と紀子さんは答えました。私の気ままな言葉を気に留めて本当に感動しました。親切に私にバスの乗り方を教えました。私に新潟のバスを初体験させていだいて本当に感謝しております。

小林さんの家は暖かく安らぎに満ちあふれた幸せな家だと私は思いました。壁に息子さんと娘さんの写真と小学校の時にかけた絵をいっぱい貼りました。紀子さんが幸せな顔でその写真を説明してくれました。

そして、盛りだくさんの晩ご飯を準備してくれました。日本人の家に私の想像以上多くの皿や茶碗があります。びっくりしました。「日本人は食べ物の味を混ぜないように沢山の食器を準備しています」と紀子さんが説明しました。晩ご飯の時、小林さんの娘さんが二人の子どもを連れてお越しいただきました。二人の子どもがすごく可愛いです。最初、人見知りをしたので、泣きましたが、15分ぐらいで私と仲よくなりました。紀子さんから浴衣を着せていただきました。すごく綺麗な浴衣でしたが、帯がきついので、晩ご飯をたくさん食べられなかったです（内緒ですよ）。

第二日、朝ご飯を食べてから、高速道路に乗って福島県へ出発しました。日新館、野口英世記念館と鶴ヶ城を見学しました。修さんは本当に博学な人です。その観光地に関する知識をいろいろ私に教えました。良い勉強になりました。日新館では矢を射ました。でも力不足で、的に届きませんでした。本当に恥ずかしかったです。鶴ヶ城で日本の茶道を体験しました。お茶を飲んでお菓子を食べながら、庭の風景を満喫して本当に楽しかったです。私をアパートまで送ってくれ、それに小林さんが自分で作った野菜を沢山もらいました。

二日間が短いですが、私に充実させてくれたために、小林さんがいろいろ準備して本当に感動しました。今回のホームステイを通じて、私は日本人の日常生活を体験した上で、何より小林さんの家族と良い友達になりました。本当に良い体験でした。

中国：劉 鯤鵬（リュウ クンベン）

7月末、ホームステイに参加しました。日本の家庭の様子は、テレビのドラマやアニメで見たことはありますが、初めての経験でした。とても待ち遠しくて、早く日本人の生活習慣、食文化を知りたいと思いました。

ホームステイ先は学校から近く、ロシアのクラスメートも一緒でした。ホストファミリーの矢川さんがとても優しい方で、わが家に帰ったようでした。旦那さんは仕事がありましたが、迎えに来てくれ、とてもうれしかったです。

日本人はとても真面目で、きちんとしています。出発時刻、交通手段、到着時刻、内容、帰宅時刻、乗り換えなど、全部のスケジュールを書きます。見習いたいと思いました。

対面式後、白山公園の中にある燕喜館と白山神社に行きました。燕喜館は斎藤商人が建てたそうで、建築技術や構造がとても素晴らしかったです。特に昔の日本人の生活習慣に興味がある外国人にとって、素晴らしい場所で、多くの観光客が訪れる人気の観光コースです。

白山神社では、矢川さんの奥さんが神社の由来や日本の信仰について、教えてくれました。毎年多くの方が参拝に来ると聞きました。参拝客が真剣に参拝するのを見て、参拝したくなりましたが、信者ではないので、しませんでした。静かにその場を去りました。

夕食に奥さんが日本料理を作ってくれました。生ものが苦手な私のためにわざわざ別のごちそうも作ってくれて、本当にうれしかったです。

食後、マッサージをして、お風呂も入りました。お風呂は疲労回復ができ、日本人がとても好きなようです。

日曜日は自然科学館と歴史博物館に行きました。自然科学館では、子どもたちが順序よく、見学していました。歴史博物館では、自然災害、特に水害についてたくさん知りました。一日半があっという間に過ぎました。アパートまで送ってくださり、再会を誓いました。

日本人の面倒見の良さ、効率の良さは本当に感服しました。この活動を通して、日本人の良さをあらためて感じました。今後の人生に活かしたいと思います。



「留学生を受け入れて」

内山 千津子

私は今年の1月から3ヶ月間ニュージーランドでホームステイをしながら英語を学んできたので英語が話せる人を条件に引き受けた。しかし対面したPさんは、たった9ヶ月しか新潟に滞在していないのに流暢な日本語を話す中国人女性だった。お蔭で思いを一步深めて話し合うことができた。

二人の共通点は「何でもやってみないとわからない」だった。二日間のスケジュールの中で私は、「新潟弁と絵手紙をお教えしたい」とことと「毎朝寺尾公園でやっている30分の体操に同行して欲しい」と伝え、とり入れてもらった。家に到着し一服した後、約一時間の新潟弁講座開始。「そんげ見んなて、しようしらわ」「寝そけたら寝ぼこいてしもた」「ばあか、かがっぽいね」「おおばらくたにしたらろもあがれて」「一緒にえんでくんなせや」などなど。Pさんは発音がおもしろいと言いながら一つ一つメモし、私の後について話していった。アクセントが違うと雰囲気が変わってくるので二人で大笑いした。Pさんは「アルバイト先の店長に新潟弁で話してみる」と言い意欲的だった。

夕食後ワインが回ると悩みの相談まで話は進んだ。今、落ちこんでいる新潟の友達にどう交わっていったらよいかとか彼氏に思いを伝えるべきか等々。

私が、どうしたらもっと英語が上達するかと問うと「毎朝、英語のNHKニュースを聴き、同じようにまねをしてみたり書いたりする。語学の勉強は努力の積み重ねです」との答えに納得した。また戦争で日本人は中国に侵略し人殺しや悪い事を沢山してきた。「日本人は嫌いじゃないですか」と聞くと「それは過去の歴史であり今の日本人と関係ないです」と話されたので胸をなでおろした。

Pさんは「小中学校で苦しい事が沢山ありましたから人生を楽しむ人になりました。ネガティブな時は誰でもあります。立ち直りが大事ですよ」等々数々のP語録を残してくれた。

「またぜひどこかでお会いしましょう」と固い握手をして別れた。学ぶ事の多かった二日間だった。



「あねいさんと楽しい2日間」

大滝 慶祐

ぼくは、あねいさんが来るのを楽しみにしてて、ウエルカムボードも作っていました。

そして当日あねいさんと会ってから、はくさんじんじやでまっ茶を飲みました。

ぼくは、はじめて、お茶をたててもらったのでうれしかったです。

そのあと、4人でたこやきを食べました。その夜は、花火をしました。今回は、ねずみ花火などをやったりしました。

次の日は、ささがわながれに行きました。行くまでも、楽しかったです。3DSなどであそびながら行きました。

行ってみると、お母さんがきれいなしみたいのを見つけて、あねいさんといっしょにさがすといっばい見つけました。ぼくは、水着を持っていたので海に入ってみると、魚がいっばいいましたがとれませんでした。あがってあねいさんと、ちっちゃいさかなをいっばいとりました。あねいさんとの2日間とても楽しかったです。



「新しい出会い」

櫛舎 信夫・順子

受け入れ家庭オリエンテーションで我家にホームステイするのはインド人のソムさんということでした。対面式まで一週間ありその間に連絡をとって心配だった食事について確認したら日本食大丈夫とのことで安心しました。

ホームステイ当日ソムさんはインドのスウィーツを作って持ってきてくれました。それは初めて食べるものでしたがとてもおいしかったです。

私達の用意した日本食は食べてくれましたが、香辛料がきいていないので口に合わなかったみたいで食文化の違いを感じました。

私達はインドのことについて殆んど知識がありませんでしたが、ソムさんはパソコンを持参してくれてインドのことをいろいろと教えてくれました。国土が広大で人口も多く、多民族で地域によって話す言葉が違い同じインド人でも言葉が通じないとのことでした。我々日本人にはなかなか理解できない問題のようです。

ホームステイはあっという間に終了してしまった感じで大変有意義な時間を過ごすことができ感謝しています。

反町 玲子

今回、初めてホームステイ受け入れを経験させていただきました。

娘が外国に興味を持ち、将来は留学したいという夢を持っているので逆にホームステイで受け入れる側はどんな気持ちになるかを知るためによい機会だと思い応募をしました。

期待と不安を抱えて当日を迎えましたがアンナさんとお会いした瞬間、とても素敵なお嬢さんだったので不安は消え、どんな二日間になるかととても期待が膨らみました。

こちらで連れて行ってみたいなと思っていた所はほとんど行かれたとのことで街と海が見える日本海タワーに行きました。そこでゆっくりとアンナさんのご家族のことやロシアはどんな所なのかを聞くことができ、これで一気にお互いの距離が縮まったように思えます。

言葉の壁の不安もありましたが、とても日本語がお上手で、聞いたことのない花の名前やちょっと難しく通じない言葉を伝えたいとき、アンナさんと娘はスマートフォンで調べ合っていたので支障はありませんでした。

その後、旧小澤邸宅へ行き、昔ながらの日本の豪邸を見ました。

夕食は、大勢で食べたほうがいだろうと実家へ行き、8人で食卓を囲みました。

枝豆を初めて食べられるということで、食べ方を教えました。他にも初めて食べるという食べ物も多かったようです。

自宅に帰ってからは、アンナさんがバルーンアートで、花を作ってくださいました。

また、就寝前にもロシアについてのお話を聞きました。

二日目の朝は自宅ですっきりした後、近くの自然科学館に行きました。

初めて見るプラネタリウムをととても喜んでもらえたようで、うれしかったです。

娘は髪を編みこんでもらったり、楽しいお話をたくさん聞かせてもらえ、本当の姉以上に姉のようだと喜び、私も遠くのように感じていたロシアを身近に感じられるようになり、「世界はひとつ」と、実感することができました。

こういう機会を与えていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。

嶽岡 由香里

以前から留学生との交流に関心があり、今回の「留学生のためのホームステイ」に応募しました。念願のホストファミリーになれてうれしかったです。何か好きかな？苦手なものはあるかな？どこへ行こうかな？などなどワクワク、ドキドキしながら楽しみにしていました。

一日目の夕食は、そうめんと天ぷらを作ることになりました。買い物をしながら、天ぷらの材料の野菜を見て回りました。中国にはオクラはないそうで、試食が出来ました。気に入ってくれたようなので、オクラも天ぷらにすることにしました。

帰宅後、息子がレイちゃんに漢字や計算の問題を出すんだ！と問題作りを始めた、UNOやトランプを楽しんだ後は、夕食作りと・瞬間に時間が過ぎていきました。レイちゃんが積極的に手伝ってくれました。私も嬉しくなって野菜の切り方を教えていると、問題作りに没頭しながらも息子が焼きもちを焼き始めました。そんな息子をなだめながら、天ぷらが完成。私の準備が遅くて時間がかかってしまいました。夕食後は、真剣に息子作成の問題を解いてくれ、その上、息子と一緒に寝てくれました。子ども好きのレイちゃんに感謝でした。夕食後、温泉に行って疲れを癒し就寝。

二日目、早起きしてラジオ体操に出かけ、カードにハンコを押してもらいました。白山朝市ものぞいてみました。朝食は、肉じゃが。洗い物をしてくれて助かりました。休憩後は、自転車点検のため再び小学校へ。中国ではないそうで「自転車を点検してくれるなんて親切だ」と話していました。昼食は、お好み焼きともんじゃ焼きを食べに行きました。「美味しい」と喜んで食べてくれたので良かったです。その後は、マリニピアへ。小学生の時以来だと言いながら、息子と一緒にすごく楽しんでくれました。二人が兄弟のように思えました。レイちゃんと別れた後、息子は寂しくて泣いていました。いつか中国に会いに行きたいと思います。

今回、私が日本の文化や新潟のことに無知だと気づくと同時にもっと知りたい！と思いました。貴重な経験ができたことに感謝しています。ありがとうございました。



「ホームステイ受入れの思い出」

矢川 幸枝

平栗 義知

今回のホームステイで、韓国から新潟大学へ留学中の呉基成さんを受け入れました。

ホームステイ受入れは私にとって初めて経験する事だったので、多少の不安と緊張がありましたが、対面式で彼の笑顔を見た瞬間、不安と緊張はなくなりました。

ホームステイ受入れに当たって、私たちが住むアパートでは少し手狭かと思ひ、上越市内の妻の実家へ行く事に決めていました。

彼は驚くほど日本語が堪能で、道中の車内でお互いの自己紹介等の会話も随分と盛り上がりました。

上越市に着いてからは、早めの夕食の材料を買いに近所のスーパーへ行き、夕食を食べました。丁度この日は近所の祭りで御神輿が出ている日でしたので、浴衣を着て見物に行きました。

帰宅後は家で花火をして、みんなでお酒を飲みながらいろんな話しをしました。

翌日、近所の朝市に出かけたのですが、偶然、韓国出身の女性が出店されていて、彼と店主さんが韓国語で懐かしそうに話している姿がとても印象に残っています。店主の方からお土産にとキムチをいただきました。

その後は、家で妻の友人も交えて昼食に手巻き寿司をみんなで作って食べ、終了の時刻も近くなっていたので、上越市から新潟市へ戻りました。新潟市へ戻る途中の車内では、彼はぐっすり眠っていました。

彼は、来年には韓国へ戻り、就職活動で大変忙しくなるそうです。それまでにより多くの日本の文化や伝統を吸収し、日本語もさらに勉強して、立派な社会人になりたいと言っていました。また、彼とは、私が韓国旅行をした際にガイドをしてくれる約束もしました。

私はこれまで「国際交流」という事はあまり意識することなく過ごしてきました。一日半という短い時間ではありましたが、彼との会話を通して、様々な気付きを得ることができた貴重な時間だったと感じています。

何年か後に、是非彼のガイドのもとで、韓国旅行を試みたいと思いました。

最後になりましたが、基成くん、楽しい時間ありがとうございました。残りの新潟大学での生活を悔いが残らないよう思う存分満喫してくださいね。

自分の子ども2人が海外留学してホームステイでお世話になったので、恩返しと思ってこのたび応募させて頂きました。

組み合わせが決まる前に、最近の中国・ロシアとの領土問題で、両国に対して心にちょっと壁を感じていたため、もしかしたら中国かロシアの方になるかなという予感がありましたが、実際にその通りになり、驚きました。

でも国民の一人として直に向き合えばきっとそんな壁も吹き飛ばはずと楽観しておりました。

クロスパルでの対面式では、会場に入って留学生達を見たとき、すぐにあの方達、と直感した通りでまた驚きました。

中国人の劉さんは独学で日本語を勉強されたとか、口癖は「ある研究者によりますと…」で何度もその見解に感心したり笑ったり。独特の個性が何とも面白い方でした。

ロシア人のアルティッシュ君はロシア人といっても日本人そっくりのアジア系ロシア人でした。正確にはトゥヴァ共和国というモンゴルの国境付近の国でした。ウラジオストクの大学で4年間日本語を勉強したというだけあって、日本人顔負けの流暢な日本語を話されるのにまたびっくり。お祖父さんは俳優で、黒沢明監督の「デルス・ウザーラ」という旧ソ連との合作映画の主人公を演じられたとかで、ますますこのトゥヴァ共和国に関心が高まりました。

海外ボランティアで活動したおかげで、世界に沢山の友人ができましたが、中国とロシアには友人がいなかったため、新しい世界が広がったようでした。

ドイツの友人宅に招かれたとき、お部屋のドアに「我が家によろこそ！」と名前入りで歓迎の言葉を書いてあり、お土産まで用意してあって感激した思い出があったので、早速それを真似してドアにリボン付きのメッセージを貼り、気持ちだけのプレゼントを用意しましたが、彼らは喜んでくれたでしょうか。

彼らからは「つまらない物ですが…」という言葉と一緒に菓子の贈り物を頂きました。その言い方が何とも可笑しく愛らしいので笑ってしまいました。

二人とも4月に来日されて以来、看板は見ただけど来るのは初めてということで、自宅に行く前にまず旧斎藤邸に向かい、そこで抹茶と和菓子を楽しみました。更には白山神社を見学した後、ハスの花咲く白山公園を散策しました。

その後朱鷺メッセの展望台に行きましたが、あいにくの雨で市街を見渡すことはできませんでしたので、

皆でアイスクリームを食べました。

夕食には手巻き寿司を用意しましたが、やはり中国人の劉さんにはちょっと合わなかったようです。けれど話はとてもはずんで地図を見ながらトゥヴァ共和国や劉さんの故郷黒竜江省について伺いました。トゥヴァ共和国は今はまだ何も無い草原の国だけど鉄道ができれば、豊かな資源を活用して未来は発展すること、また劉さんの故郷大慶は中国有数の石油産地で、両親とも国営の石油会社で働いているとのことでした。「新潟は田舎ですねえ～」というだけあって大慶は人口230万の中都市だそうで、しかしご多分にもれず住民は大気汚染に苦しんでいるとのこと、高度成長期の日本も同じ問題で悩んだと話してあげました。

夕食後はマッサージ機でリラックスしてもらい、テレビを見て楽しんだ後、お風呂に入ってから就寝となりました。

翌日は新潟県立自然科学館、市立歴史博物館に行き、それぞれプラネタリウムと「水の都新潟」のVTRを鑑賞しました。規模が小さいわりには楽しめたようです。その後、中華レストランに行き、ランチを共にしました。劉さんは真剣な表情でゆっくりと味わって食べていました。とてもおいしい！と言ってくれたので安心しました。

そして午後3時半頃、中央区のアパートまでお送りしてお別れしました。

共に過ごす中で感心したのはアル君の気配りでした。日本人以上によく気がついて、車の乗り降りではいつもドアを開けてくれたり、手を差し出してくれたり、またいつもすぐに「ありがとうございます！」の言葉が二人から出てきて、すっかり感心しました。今は日本の若者でも忘れがちな気配りを外国人の二人がちゃんとできているのは素朴なお国柄のせいでしょうか。

他国でホームシックになったり、誤解があったり、楽しいことばかりではないはずなのに、こうして頑張っている二人に心からエールを送りたいと思います。『苦しいことがあっても未来の為に勉強頑張って！』、『また新潟の我が家に来て、おいしい新潟のお米を食べていってね！』

今はからっぽになった息子の部屋が二人のお蔭で明るくなって何だかとても嬉しかったです。

それから始めに感じた壁はすっかりなくなって、今は中国とトゥヴァ共和国の発展を心からお祈りしたい心境です。国家の政策と庶民の感覚はもしかしたら隔たりがあるのかもしれませんがね。

